

2016年7月4日掲載

削る必要がないむし歯  
局所の清掃 徹底して

歯に黒い着色があった場合、治療の必要があるむし歯を想像しがちです。しかし人間の体には治癒能力があり、むし歯も唾液の中の石灰化イオンでだんだん固まる事があり得ます。この唾液の治癒能力を石灰化作用と呼びます。特に歯周病などで露出した歯根面にできたむし歯である「根面う蝕」は、歯の中で広がるタイプのむし歯と違い、表面に露出した状態で唾液の石灰化作用の恩恵を受けやすいため、一度むし歯に罹患（りかん）したにもかかわらず、唾液によって治癒した状態になることがあります。

むし歯だった根が固まって治った状態を「進行停止期」と呼び、黒くてツルツル光っています。黒くても削る必要のないむし歯です。

「根面う蝕」が大きくなっている途中の状態は「進行期」と呼ばれ、褐色でガサガサした表面をしており、唾液の石灰化作用よりもむし歯菌の歯を溶解する能力が上回っている状態といえます。

唾液が負けてしまう理由として、プラークが付着したままでうまく除去できていない、また食事の間隔が短くむし歯菌が酸を出す頻度が高いなど、生活習慣の問題も挙げられます。さらに高血圧薬等の薬剤による唾液分泌低下、膠原（こうげん）病等の唾液が減少する疾患などの問題もあります。

生活習慣を改善し局所の清掃の徹底や歯科医院においてフッ素（フッ化ナトリウム）を塗布する事により、削って充填（じゅうてん）することなく「進行停止期」に移行する場合があります。